

# 箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟  
箕面ユネスコ協会事務局  
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20  
みのおキューズモール2Fみのお市民活動  
センター内 箕面ユネスコ協会 (メール 付き)  
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



MINOH

- ◆ 目 次 ◆  
○ 活動報告  
○ お知らせ

♪ ホームページ折々に更新中!  
「箕面ユネスコ協会」  
で検索してください♡

## ●2024. 1.1 発災 「能登半島地震」支援活動開始!

緊急報告!!

まず、1月1日16時10分の能登半島地震により、犠牲となられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された全ての皆様に心よりお見舞いを申し上げます。被災地域の皆様の安全確保と被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを祈り申し上げます。

### 能登半島地震の支援活動へ行ってきました

1月1日の能登半島地震、1月2日の航空機の事故と心が痛む事案が相次ぎました。テレビから流れる能登地震警戒音は、津波も相まって東日本大震災を彷彿させました。現地の事情を考えると、何かしたくても道路の復旧を待つしかありませんでしたが、熊本地震等からともに被災地支援を行ってきた北芝・暮らしづく



りネットワークメンバーと1月11日に現地入りし、2月4日には箕面ユネスコとして、支援活動や北摂つばさ高校が募った募金を珠洲の支援活動を行っているNPOへ届けることができました。(坂口 一美)

2月4日、つばさ高校で集まった募金を持って行くという任務で珠洲市へ行ってきました。鹿児島からの車



でタイヤが気になりましたが、道路に雪は残っていませんでした。地震でボコボコに波打ち、砂利とアスファルトで緊急補整のためスピードは出せません。渋滞の中で巡視中の鹿児島県警のパトカーが、鹿児島ナンバーの私たちの車に気付き、「どちらまでですか?まだまだ道が大変なので、お気を



つけて」と頭を下げ激励してくださいました。電柱が、あちこちに歪んでいるのも怖かったです。無料で、銭湯を沸かして下さっている所へ募金も渡せ、炊き出しや荷物の整理も少しお手伝い出来ました。主人はお風呂屋さんの駐車場整理をしました。炊き出しの温かいおでんのご飯は、水が来ていない皆さんが「とても嬉しい」「家族が多くて本当にごめんなさい。ありがとう」と頭を下げられ、家族分、喜んで

持って帰られました。水道だけではなく、下水管もズレたり外れたり使えないため、「洗い物も出来ない」と困っておられました。災害が起こるたび、色々教えていただいておりますが「全てがまだまだで、これからだ」と思い知らされました。皆さんを励ましながら、私も元気をいただいて帰ってきました。一日も早い、復旧、復興を祈るばかりです。(辻田 智子)

## ●「ユネスコ世界寺子屋運動」リーフレット作品パネル展● 箕面市立北小学校5年生&箕面市立南小学校5年生

1月26日～2月4日、市民活動センターでリーフレット作品パネル展を開催しました。「ユネスコ世界寺子屋運動」は、貧困や紛争などさまざまな理由で学校に行けない子どもたちや教育を受ける機会がないまま大人になった方々のために、日本ユネスコ協会連盟が1989年から続けている活動です。この活動を通して、これまでに44か国1地域に539の寺子屋を建設、延べ約135万人の人たちに学ぶ機会を提供してきました。寺子屋を建設、維持していくためには多くの資金が必要です。日本各地のユネスコ協会（279協会）では、書きそんじハガキや未使用切手、プリペイドカードなどを連盟に集約、企業に引き取ってもらうことで現金化し、活動資金にあてています。

両校の子どもたちは、ネパールの子供たちとオンライン授業で出会ったり、現地でのボランティア活動の話の聞いたりする学習を通し、世界の識字課題について学びを深めてきました。‘自分たちができること’の一つとして運動に協力して下さり、書き損じはがきを集めたり、広く知って頂くためのリーフレットプロジェクトに参加して下さいました。今年度は、箕面市および箕面市教育委員会の後援、「(特活)市民活動フォーラムみのお」の協力を得て、子どもたちの全作品をパネル展の形で多くの来館者のみなさんに見て頂くことができました。たくさんの方々との協働に感謝したいと思います。ありがとうございました。

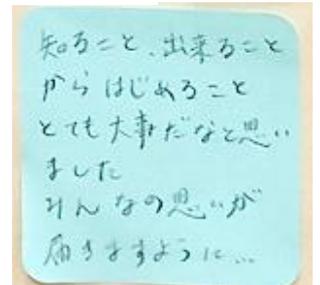
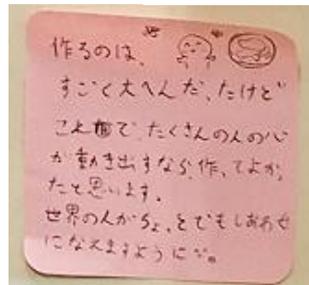
♪寄せられたコメントより



検索

ウェブ投票 寺子屋リーフレット

検索して頂くと、投票フォームにいきます。北小学校と南小学校から代表の4作品がユネスコリーフレットコンクールにエントリーしています。全国からの作品をぜひご覧ください ぽちっと投票をよろしくお願いします



## ●箕面市立彩都の丘学園 5年生● go for it!～笑・和・輪・湧・羽～

南小学校、北小学校に続き、彩都の丘学園の5年生に、カンボジアスタディーツアーでの学びや、世界にある識字課題について伝えました。1年の総まとめの3学期です。行動の一つとして、実行委員会のメンバーが、書き損じはがきを箕面ユネスコ協会に託して下さいました。



カンボジアの寺子屋の様子を伝える川本さん。子どもたちおとなたちの様子から「学ぶことは楽しい」という気づきを伝えました



世界にある識字課題、マララ・ユスフザイさんの国連演説の動画を紹介しながら伝えました



頑張って集めて下さったたくさんの書き損じはがきをお預かりしました みなさんありがとうございました！！

(大濱 淳子)

## ●箕面ユネスコ協会「2023 報告会・気仙沼の食材とお酒を楽しむ会」開催！

2014年1月25日、箕面ユネスコ協会はらいとぴあ21で「3.11を忘れない」「気仙沼の食とお酒を楽しむ会」を開催いたしました。「これからは、被災地だから、被災地のものだからということではなく、素晴らしいところだから、面白いやつらがいるから気仙沼に行ってみよう。美味しいものだから気仙沼のものを買おう」という自然なスタンスで、未永くおつきあいを続けていこうという思いでスタートしました。

あれから10年。気仙沼大島ヤマヨ水産（牡蠣）小松武さん・「男山酒造蒼天伝」菅原昭彦さん・山長小野寺商店小野寺由美子さん等、多くの気仙沼の皆さんのおかげでコロナ渦中にもめげず、形を変えながらも継続してこられたことに感謝しております。

今年は大阪府ユネスコ連絡協議会 中馬 弘毅会長・奈良ユネスコ協会 中室 雄俊会長、さらにサプライズで気仙沼から気仙沼商工会議所会頭 菅原 昭彦男山酒造社長にもご参加いただきとても盛り上がりました。

地域からは、世界寺子屋運動に関わる書き損じはがきを集めている小学校児童の後押しをいただいた、帝釈寺 小西 徹定住職様にもお出でいただきました。ありがとうございました。（坂口 一美）



「食を共にするっていいですね」人と東北被災地をつなぎ、人と人を紡ぐ食のパワーに感服します。会場は終始なごやかな雰囲気にも包まれ、他ユ協の皆様と交流も深められ、あっという間の4時間でした。「東北の被災地に行ってみよう」というお声も寄せられ、心に響いた食を楽しむ会だったと感じます。（大槻 晴美）



## ●ネパール・ボランティアスタディーツアー

**緊急！クラウドファンディング(3/15 まで)公開中!!**

**箕面ユネスコ協会ホームページをご覧ください！**

日程：2024年3月17日(日)～3月23日(土)7日間 活動地域：カトマンズ、Sindhupalchok District



このプログラムでは、教育分野の切り口から今世界が抱えている課題や現状への気づきを促し、世界的な視野と積極的な行動力を身につけた若者の育成をめざします。

村の生活およびホームステイ体験し、ネパールの文化・生活習

慣に触れるネパールボランティアスタディーツアーを3月に再開します！世界的な視野と状況に応じた行動力を身につける若者向けの育成プログラムです。ツアーの舞台は、村の奥地で言葉も文化も違う場所。現地の生活にどっぷりつかると、参加者の力で村の衛生ワークショップをやり上げることが今回の大きな目的です。

### このプロジェクトで実現したいこと

「村の子どもは大人も含めて感染症にすぐかかってしまいます。みんな爪の中が汚いまま、歯を磨かないまま。小さな病気が命取りになることを理解できていないことが問題なのです。日本の皆様、なぜ、清潔にしなければならないのかをぜひ大人たちに伝え、子ども達にそれを教育するきっかけを作って頂きたいと考えます。ぜひ！応援をお願いいたします。(現地NGOのコメントより)」  
(山田 祐加)

## ●能登へ「つばさネットワーク」高校生ボランティアに行きます！

◆ 2024/3/29～3/31 実施予定 ◆ 2023年の夏に宮城県の気仙沼市に東日本大震災復興ボランティアに参加した北摂つばさ高校の生徒の思い。～先輩たちは震災後、約50日で現地に行き、気仙沼市の東日本大震災復興ボランティアを13年間、続けているのを聞きました。少しでも現地の方の手助けができれば、という思いでボランティアに参加することを決めました。気仙沼に行くと、この場所で大きな震災がおきたとは思えないぐらいに、街並みが整備されていて、実際どんな被害があったのか聞かないとわからないぐらいでした。でも、気仙沼市の東日本大震災遺構・伝承館に行くと、津波や泥がどのくらいの高さまで来たかが分かる跡が津波前の気仙沼向洋高校の校舎の壁面に残っていました。また、車や発泡スチロールなどが4階の高さまで津波によって流されてきた当時のまま残っていました。震災がどんな被害をもたらしたのか、当時の建物を見て聞いて肌で感じる事ができました。今年の元旦におきた石川県能登半島地震の復興募金をしました。26万円を超える募金は、坂口さんが珠洲市に届けてくださいました。今、私たちは、この3月末に珠洲市にボランティアに行くことを計画しています。私たちは震災後、約90日で現地に出向く予定ですが、震災後、約50日で現地にボランティアにいった先輩たちは、今、私が抱えている不安や心配を、私たち以上に感じていたんだろうと思っています。3月には石川県能登半島の現地ボランティアでも新しい経験ができ、たくさんのお話が聞けたら良いなと思っています。



さんのお話が聞けたら良いなと思っています。

(北摂つばさ高校2年生)